

# 日本・イタリア株、下げ突出

先週(20～24日)の世界の株式市場は、日米欧など先進国を中心に下落が目立った。英国の欧州連合(EU)離脱が24日に決まり、投資家が株式を売る動きが急速に強まったため。特に日本とイタリアの下げが突出した。金融市場は英国の残留予想に傾いていたため、英国民が選んだ想定外の結果に衝撃が走った格好だ。一方、東南アジアの株式相場は相対的に堅調だった。

世界の主要25市場の中で騰落率がトップになったのは、皮肉なことにEU

離脱ショックの震源地である英国だった。国民投票の結果が判明した24日はFTSE 100種が下落したが、週間みると約2%上昇した。ただ、離脱の影響が大きいとされる金融株は例外で、ロイズ・バンキング・グループは24日だけで21%、バークレイズも18%下落した。

一方、EUを構成するフランスは2%強、イタリアは7%強下落した。英国に続くEU離脱ドミノへの警戒が強まったほか、欧州景気の後退リスクが

意識された。24日の東京株式市場も日経平均株価が8%下げ、下げ幅は約16年2カ月ぶりの大きさだった。週間でも4%の下落で、特に円高を背景に輸出企業が売りを浴びた。

一方、ロシアなど資源国の株価は週間では上昇を保った。EU離脱ショックによって米連邦準備理事会(FRB)が7～9月の利上げに慎重になるとの見方が強まれば、新興国市場にとっては追い風になる可能性もある。

(関口慶太)

## 各国・地域の株価指数週間騰落率

| 順位 | 国・地域名          | 週間騰落率 | 順位 | 国・地域名                | 週間騰落率 |
|----|----------------|-------|----|----------------------|-------|
| 1  | 英国 FTSE 100種   | 1.95  | 14 | インド SENSEX           | ▲0.86 |
| 2  | ブラジル ボベスパ      | 1.15  | 15 | メキシコ IPC             | ▲0.93 |
| 3  | ポーランド WIG20    | 0.87  | 16 | シンガポール ST            | ▲1.01 |
| 4  | マレーシア KLCI     | 0.61  | 17 | 豪州 オールオーディナリーズ       | ▲1.06 |
| 5  | 香港 ハンセン        | 0.44  | 18 | 台湾 加権                | ▲1.06 |
| 6  | スイス SMI        | 0.44  | 19 | 中国 上海総合              | ▲1.07 |
| 7  | ベトナム VN        | 0.25  | 20 | 南アフリカ FTSE/JSE トップ40 | ▲1.23 |
| 8  | ロシア RTS        | 0.24  | 21 | 韓国 韓国総合              | ▲1.44 |
| 9  | フィリピン フィリピン総合  | 0.10  | 22 | 米国 ダウ工業株30種平均        | ▲1.55 |
| 10 | インドネシア ジャカルタ総合 | ▲0.01 | 23 | フランス CAC40           | ▲2.08 |
| 11 | トルコ BIST100    | ▲0.09 | 24 | 日本 日経平均              | ▲4.15 |
| 12 | タイ タイ総合        | ▲0.57 | 25 | イタリア FTSE MIB        | ▲7.09 |
| 13 | ドイツ DAX        | ▲0.77 |    |                      |       |

(注) 指数は一部略称、騰落率は%、▲は下落